



赤羽別院報 第52号
 発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺
 〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
 Tel・FAX (0563) 72-2308
 Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

■講師プロフィール
 大澤 伸雄 (おおさわ のぶお)
 1948 (昭和23) 年生まれ
 大谷大学大学院文学研究科
 博士課程仏教学専攻満期退学
 大谷大学等々から
 元桜花学園大学教授
 みよし市 大興寺 住職
 三好丘に支坊建立
 みよし憲法九条の会代表

仏と成っていける道



我々が人間に生まれてきたというのは千載一遇でありえないチャンスです。「仏法聞き難し、いますでに聞くて度せすんば」といって度せすんばから、この身、人間の身の時に脱出させておかないと「さらさらの生に於いてかこの身を度せん」これは今度人間に生まれてこれるのは、ほぼ不可能に近い。だから今、この時にサイクルからの脱出をしておかなければならない。

南無阿弥陀仏も、私の3歳の孫が称える南無阿弥陀仏も一緒です。南無阿弥陀仏もものが仏さまですから。歳をとって煩惱が深くなればなるほど、しっかりと教えを聞いてお念仏を称えないといけません。南無阿弥陀仏は仏になられた相です。お信りを開かれた南無阿弥陀仏は私たちがへの呼びかけです。南無阿弥陀仏は私たちが仏となっていく道筋を与えてくださった。だから南無阿弥陀仏と称えないといけません。

■普遍的な浄土の世界
 法の世界は言ってみればお浄土です。みなさんお浄土へ生まれたいですか。私が以前、看護師さんにお聞きしたのですが、あるお母さんが小学校四年生の息子さんを白血病で亡くしたそうです。その時に立ち会った看護師さんからお話を聞きました。

「念念称名常懺悔」という言葉があります。我々にはうれしい時、悲しい時があります。しかし阿弥陀仏のおこころをいただく、教えを聞いてお念仏を称える。「そうだったんだ」という深いうなずきを感じたい。真実といふのは、求めていた時に、はからずも「ああこれだったんだな」、阿弥陀様のお救いというのを感じたい。これはこれだったんだなといいたければ、後からお母さんが必ず来てくれる。ほくが待っていて、お母さんが必ず約束を果たして、ほくをまた腰かく抱いてくれる。そのお母さんとの約束が死を受け入れていくこの子でもさんの唯一の支えになるのです。それでは、その子はどこまで待っているのか。お母さんがその子と約束を果たすか。はたどうしたいか。お母さん。そういうことが人間の根底にある。実は私、5月11日に次男を亡くしました。二十九歳でした。親だから子どもの良いところも悪いところも知っているつもりですけれど、必ずな息子でも阿弥陀さんは必ず救って浄土へ迎えてくださる。その教えが私たちに残された者が生きていく力になります。お母さん、石川県の石倉お母さんという方。その息子さんには鹿児島県の知覧から特攻隊にでることになりました。息子さんにあてたお母さんのハガキです。「必ずだんをかかへて行く時は、必ずお母さん、もうほく死ぬよ」といいます。もうお母さんは返答に困ってしまし「そんな悲しいこと言わないで。母さんは、じやあ、どうしてあげればよいか」と聞きました。お母さんが先にいけよ、後からきいて来てね」と言っていました。それでお母さんは思わす「うてよ」と言いました。

常念に念仏してしましめる
 「念念称名常懺悔」という言葉があります。我々にはうれしい時、悲しい時があります。しかし阿弥陀仏のおこころをいただく、教えを聞いてお念仏を称える。「そうだったんだ」という深いうなずきを感じたい。真実といふのは、求めていた時に、はからずも「ああこれだったんだな」、阿弥陀様のお救いというのを感じたい。これはこれだったんだなといいたければ、後からお母さんが必ず来てくれる。ほくが待っていて、お母さんが必ず約束を果たして、ほくをまた腰かく抱いてくれる。そのお母さんとの約束が死を受け入れていくこの子でもさんの唯一の支えになるのです。それでは、その子はどこまで待っているのか。お母さんがその子と約束を果たすか。はたどうしたいか。お母さん。そういうことが人間の根底にある。実は私、5月11日に次男を亡くしました。二十九歳でした。親だから子どもの良いところも悪いところも知っているつもりですけれど、必ずな息子でも阿弥陀さんは必ず救って浄土へ迎えてくださる。その教えが私たちに残された者が生きていく力になります。お母さん、石川県の石倉お母さんという方。その息子さんには鹿児島県の知覧から特攻隊にでることになりました。息子さんにあてたお母さんのハガキです。「必ずだんをかかへて行く時は、必ずお母さん、もうほく死ぬよ」といいます。もうお母さんは返答に困ってしまし「そんな悲しいこと言わないで。母さんは、じやあ、どうしてあげればよいか」と聞きました。お母さんが先にいけよ、後からきいて来てね」と言っていました。それでお母さんは思わす「うてよ」と言いました。

大澤伸雄師法話要旨

お釈迦さまの教え
 仏法というのはお釈迦さまから始まります。お釈迦さまが大自然、大宇宙の道理、法を人類で初めて発見された。お信りを開いたということ。お釈迦さまの時代、インドでは死ぬと魂が抜けると考えられていました。生まれては死にを繰り返す。魂の通る道は六道輪廻といって、生死を繰り返すとインドのパラモン教では考えられていました。これを「お釈迦さまは、こんなことを何回繰り返していても苦しみに迷いの繰り返してはならない。みんな苦しみに迷い、争い、怒り、そういうことしかない。そこからお釈迦さまが何を考えたかという、もう二度と生まれない、もう二度と死なない世界、永遠のいのちの法の世界に脱出する」といいます。

南無阿弥陀仏は仏の相
 私たち他力浄土門はお念仏を称えないといけません。それが最近、聞こえなくなってきました。私の祖父は南条文雄先生(元大谷大学学長)の随行をやっていました。先生は「大澤君、豊からお念仏がわいてくる人はいない、わいてくると必ず言われた。それは南無阿弥陀仏そのものが仏さまだからです。だから南無阿弥陀仏を称えればこんな私に仏さまが一緒にいてくださいます。」

普遍的な浄土の世界
 法の世界は言ってみればお浄土です。みなさんお浄土へ生まれたいですか。私が以前、看護師さんにお聞きしたのですが、あるお母さんが小学校四年生の息子さんを白血病で亡くしたそうです。その時に立ち会った看護師さんからお話を聞きました。

常念に念仏してしましめる
 「念念称名常懺悔」という言葉があります。我々にはうれしい時、悲しい時があります。しかし阿弥陀仏のおこころをいただく、教えを聞いてお念仏を称える。「そうだったんだ」という深いうなずきを感じたい。真実といふのは、求めていた時に、はからずも「ああこれだったんだな」、阿弥陀様のお救いというのを感じたい。これはこれだったんだなといいたければ、後からお母さんが必ず来てくれる。ほくが待っていて、お母さんが必ず約束を果たして、ほくをまた腰かく抱いてくれる。そのお母さんとの約束が死を受け入れていくこの子でもさんの唯一の支えになるのです。それでは、その子はどこまで待っているのか。お母さんがその子と約束を果たすか。はたどうしたいか。お母さん。そういうことが人間の根底にある。実は私、5月11日に次男を亡くしました。二十九歳でした。親だから子どもの良いところも悪いところも知っているつもりですけれど、必ずな息子でも阿弥陀さんは必ず救って浄土へ迎えてくださる。その教えが私たちに残された者が生きていく力になります。お母さん、石川県の石倉お母さんという方。その息子さんには鹿児島県の知覧から特攻隊にでることになりました。息子さんにあてたお母さんのハガキです。「必ずだんをかかへて行く時は、必ずお母さん、もうほく死ぬよ」といいます。もうお母さんは返答に困ってしまし「そんな悲しいこと言わないで。母さんは、じやあ、どうしてあげればよいか」と聞きました。お母さんが先にいけよ、後からきいて来てね」と言っていました。それでお母さんは思わす「うてよ」と言いました。

赤羽地域教化センター
 ホームページ再編作業中
 現在、広報部では、長らく更新が滞っておりました教化センターホームページのリニューアル作業を進めています。更新形態を一新し、赤羽地域の情報を幅広く発信することを目的として、年内の公開を目指しております。

報恩講に向けて清掃奉仕
 教化センタースタッフ 合同
 赤羽ブロック世話会 合同
 10月9日(月) 午前7時～9時
 ※詳細は4頁に記載

報恩講 ほうおんこう
 10月14日(土)
 初夜 午後1時30分
 法話 第7組 等周寺 天野美津子師
 10月15日(日)
 日中 午前10時
 速夜 午後1時
 法話 第15組 明水寺 鈴木 聡師
 10月16日(月)
 結願最朝 午前10時
 法話 第14組 安専寺 安藤 智彦師
 結願日中 午後1時
 法話 第4組 正願寺 三保合順師

御堂寄席 別院笑いの渦!

除夜の鐘(初鐘)じよのかねはなむかひ
 12月31日(日) 午後11時30分より
 鐘撞きは先着順・どなたでも可
 甘酒、菓子等を用意しています。

修正会 しょうしゅうえ
 1月1日(月) 午前1時(初鐘に引き続き)
 法話 輪番 三浦 真教師

晨朝法話 じんじょうほうわ(午前七時)
 10月13日(金) 第11組 唯信寺 大河内和也師
 10月28日(土) 同 無量壽寺 大河内照顕師
 11月13日(月) 第12組 本誓寺 足利 謙師
 11月28日(火) 同 玉照寺 小栗 貫次師
 12月13日(水) 第13組 本淨寺 津田 賢順師
 12月28日(木) 同 明樂寺 小谷 香示師

赤羽地域教化センター
 ホームページ再編作業中
 現在、広報部では、長らく更新が滞っておりました教化センターホームページのリニューアル作業を進めています。更新形態を一新し、赤羽地域の情報を幅広く発信することを目的として、年内の公開を目指しております。

報恩講に向けて清掃奉仕
 教化センタースタッフ 合同
 赤羽ブロック世話会 合同
 10月9日(月) 午前7時～9時
 ※詳細は4頁に記載

報恩講 ほうおんこう
 10月14日(土)
 初夜 午後1時30分
 法話 第7組 等周寺 天野美津子師
 10月15日(日)
 日中 午前10時
 速夜 午後1時
 法話 第15組 明水寺 鈴木 聡師
 10月16日(月)
 結願最朝 午前10時
 法話 第14組 安専寺 安藤 智彦師
 結願日中 午後1時
 法話 第4組 正願寺 三保合順師

御堂寄席 別院笑いの渦!

一年に一度は赤羽別院へ

赤羽地域教化センター 第4期新体制発表表

本年7月、赤羽地域教化センターは、センター長を兼任する三浦真教師のもと、全四部門の部員が再編され、第4期目を発足した。人員・財源の不足等、厳しい状況のなかにおいて、赤羽地域教化事業の「層の充実・発展を目指し、三年間の歩みが始まっている。



将来につながる組織作りを

平素から赤羽別院並びに教化センターの法要・行事等に際しまして、崇敬区域のご寺院・ご門徒様には格別のご理解・ご協力を賜り、有難うございます。

第4期目は7月からのスタートですが、四部門揃っての実働は8月17日全体会後に

センター長 三浦真教

なりました。引き続きと新年度の事業予定を確認しながら、限られた予算と人材の中で、鋭意努力してまいります。

このままの反省点として事業のマンネリ化、部会への出席率の低さからスタッフ全員がの意欲疎通が図れなかった等が指摘され、その結果孤軍奮闘する姿も見られました。

また、平成31年4月11日の赤羽別院報徳会に、次期門首後継者大谷暢裕師のご参修が予定されております。

この一年は、前年度の事業を継続しつつ反省点を踏まえ見直しをし、将来につながる事業計画の確立と事業遂行できる組織作りを模索していく期間にしたいと思っております。

この一年は、前年度の事業を継続しつつ反省点を踏まえ見直しをし、将来につながる事業計画の確立と事業遂行できる組織作りを模索していく期間にしたいと思っております。

第4期 赤羽地域教化センター組織表

センター長 三浦 真教 第9組 良興寺 暮らし部	総務代行 間島 享 第13組 教榮寺	儀式部 部長 石川 祐美子 第10組 法圓寺 部長 信川 正史 第8組 隨縁寺 部長 中村 祐介 第9組 祐正寺 部長 佐々木 真哉 第11組 淨賢寺 部長 菱川 睦 第12組 篤信寺 部長 伴 仁志 第13組 良宣寺 部長 大塚 順応 第14組 應春寺	伝道部 部長 松平 昌三 第12組 淨徳寺 部長 木村 斉 第9組 福泉寺 部長 伊奈 恵祐 第8組 安樂寺 部長 野々山 隆音 第10組 永覚寺 部長 山背 隆文 第11組 善福寺 部長 土谷 篤 第13組 廣徳寺 部長 松治 第14組 本傳寺	副部長 部長 本多 友明 第8組 福正寺 部長 櫻部 開 第9組 正覚寺 部長 牧野 敏夫 第10組 香嚴寺 部長 鈴木 士平 第11組 福泉寺 部長 新田 智則 第12組 浄林寺 部長 小栗 其次 第13組 玉照寺 部長 加藤 要子 第14組 光専寺 部長 青木 一範 第14組 速成寺
-----------------------------	-----------------------	--	--	--

新聞第52号発行に向けて作業が進行中です。

この一年は、前年度の事業を継続しつつ反省点を踏まえ見直しをし、将来につながる事業計画の確立と事業遂行できる組織作りを模索していく期間にしたいと思っております。

また、平成31年4月11日の赤羽別院報徳会に、次期門首後継者大谷暢裕師のご参修が予定されております。その際の昇殿式受式の呼びかけと報徳会の準備も控えており、教区と各組事業との連携も図りながら、昇殿式への取り組みを進めます。

この寺院さまには、ご門徒様への法要・行事への参加の呼びかけとともに各組の情報を広報部へお寄せ頂けると幸いです。主催の行事の予告・報告記事等の寄稿と、それから御坊新聞の配布の徹底も、宜しくお願い申し上げます。

儀式への意識向上

儀式部長 石川祐美子
この度儀式部長を仰せつかりました第10組法圓寺の石川祐美子です。

二日目もありませんので身の引き締まる思いです。儀式部では地域活性化のために寺族を対象とした儀式作法研修会を中心に行いたいと考えています。定期的に開催し、地域全体の儀式に対する意識向上に繋がりますように願っています。

赤羽地域教化センターは先達を守ってきた別院を活動拠点とし、多くの方々が、交流できる教化と聞法の場であればなりません。

教化事業を大切に

伝道部長 松平昌三
今般伝道部の責任者を任命させて頂きました。

赤羽別院親宣寺という名称であり、寺号は室町時代に道場として始まりました。その歴史の重みと立派な山門が宝となっており、まずは、この歴史と歩みを自ら学ぶ事が大切になってまいります。

また、これまでの伝道・教化を、私達の故郷べき鏡として、一つ一つの教化事業を大切にしていこうと心がけています。

杉山駐在教導の法話

夏は続く、去る7月15日に夏の御文法要が厳修された。

「夏の御文」とは、本願寺第八代蓮如上人が明応7(1498)年に書き遺された4通のお手紙であり、毎日の朝夕のお勤めで拝読される五帖の御文とは別の特別な御文である。

特別な御文である。特別な御文である。特別な御文である。特別な御文である。

夏の御文法要厳修

同日を、別院別座で第十組・法圓寺住職の石川祐美子師が拝読された。

続いて、岡崎教区駐在教導の杉山幸師が、職務を通じて出会った念仏者の方々を紹介された。

特別な御文である。特別な御文である。特別な御文である。特別な御文である。



先輩からの教えを語る

去る8月21・22日、早朝六時、昼間の猛暑をしばし忘れて涼しい空気がの中、恒例の赤羽別院院暁天講座が開かれた。

徳行寺蓮苑にて 蓮見句会開催

第12組・徳行寺本堂裏手に、住職が手掛けた300坪もある蓮苑が広がり多くの方を楽ませています。

6月23日、その蓮苑を会所として暮らし部主催の「赤羽御坊蓮見俳句会」が開催されました。

当日は好天にも恵まれ、参加者各々がペンを手にして、思い思いに蓮苑の周りを散策しながら句詠みをしました。

その後、全投句を作者名を伏せて、参加者全員によって選句し、入賞者には、記念品等が贈られ顕彰されました。



選句の様子

暮らし部の部長を引き続き担当させていただきます。碧南市の門徒の正住職・本多友明です。

暮らし部部長 辻正三

現在、御堂コンサート、子ども絵画コンクール、赤羽御坊新聞の俳句・川柳欄などの担当をしております。

楽しんで

赤羽地域教化センターの設立以降ずっと広報部に携わり続けてきました。この私が出来ることは皆無に等しいと思いましたが、少しでも多くの方に携わって頂き、楽しんで頂けるよう努力したいと思っております。

楽しんで

赤羽地域教化センターでは、人員・財源等、苦しい状態が続いています。悔しい思いもあります。情けない思いもあります。それらをお互に、地域で頑張ろうという方々もいます。

暮らし部の活動にご提案をお願い致します。

赤羽地域教化センターでは、人員・財源等、苦しい状態が続いています。悔しい思いもあります。情けない思いもあります。それらをお互に、地域で頑張ろうという方々もいます。

赤羽地域教化センターでは、人員・財源等、苦しい状態が続いています。悔しい思いもあります。情けない思いもあります。それらをお互に、地域で頑張ろうという方々もいます。

赤羽地域教化センターでは、人員・財源等、苦しい状態が続いています。悔しい思いもあります。情けない思いもあります。それらをお互に、地域で頑張ろうという方々もいます。

赤羽地域教化センターでは、人員・財源等、苦しい状態が続いています。悔しい思いもあります。情けない思いもあります。それらをお互に、地域で頑張ろうという方々もいます。

赤羽地域教化センターでは、人員・財源等、苦しい状態が続いています。悔しい思いもあります。情けない思いもあります。それらをお互に、地域で頑張ろうという方々もいます。



各組が取組む夏の学習会



連日の酷暑の中、本年も各組が主催する夏の学習会は、昨年と同じく6ヶ組・18ヶ寺で約20日間に亘り開催された。

なかには、組の垣根を越えて、聴聞に訪れている方もおり、御坊新聞のお知らせを手に、複数の組の学習会に参加されている方の姿も見受けられた。

汗をかきながらも真剣に聴聞される方々で、どの会場もたいへん賑わいを見せていた。

大事と小事

真城義磨師

第8組
同朋大会他

夏の終わりを感ずる8月26・27日の二日間に亘り、真城義磨師を講師としてお招きし、初日は西浅井町の宿縁寺、二日目は貝吹町の福正寺を会場に、第8組夏期講習会が開催された。

講題は「大事と小事」とされ、人生を都合良く生きたい自己中心的な生活に息苦しさを感じながら生きなければならない現代に、警鐘を鳴らす内容であった。

「蟻は甘いものを見つけたら、人はずっとそれを追いつける。人は甘いものを見つけたら、自分だけの物にする。自己都合を優先する。餓鬼の生活の中で、自分の生きる場所、帰る場所、安心できる場所を無くしながら日々を送り、常に何かから追われる様な地獄の日々の生き様を、生活の中の言葉で分かり易く、引き受け易くお話しいただいた。本当に身にまつまされる内容の深い講座であった。



満堂の聴聞者

山本聡美師

第9組
夏期講習会

本年8月25・26日の両日、吉良町駒馬の良興寺にて第9組夏期講習会が開催された。

初日は、共立女子大学教授の山本聡美師をお招きし、「仏教の身体観」という講題のもと、腐乱死体を通じて身体の不浄と無常を説く。「九相図」や、病苦を通して人間の本性に迫る「病草紙」という中世日本の仏教絵画を取り上げ、中世の日本人が何を恐れ、仏教がいかんして説かれたかを話された。

二日目は、東京都・因速寺住職の武田定光師より「善の毒は悪より重し」を講題に、生きていく中で人間のする悪は目につきますが、



九相図を説く山本師

十一ヶ寺で開催

第11組
晴天講座

二〇二一年は聖徳太子一四〇〇回忌となります。歴史の授業では仏教を中心とした国造り、我が国最初の憲法「十七条憲法」の制定をされ、法隆寺、四天王寺などの寺院建立をされました。

現在も、工匠の祖として、職人さんたちの間では信仰篤く太子講が勧められています。

親鸞聖人も「和国の教主聖徳太子」と尊ばれ、七高僧と並び荘厳されてきた方々のことです。

第11組晴天講座は、本登寺住職・柳野明仁師による軽妙な琵琶の弾き語りで幕を開き、8月17日から20日まで11ヶ寺を会場として動められました。

笑いあり、歴史的視点からの考察ありの講座は、多くの講師がさまざまな角度からアプローチをされることができました。

聖徳太子が何を願っていたのか、朝日の昇るなか、改めて問い直し、聞く事が出来た晴天講座となりました。



池田真師

第12組
夏期真宗講座



去る7月1日、鎌谷町蓮光寺に於いて、池田真師(愛西市・萬瑞寺)が講師にお迎えし、夏期真宗講座が開催された。

池田師は「仏さまから元気をいただく」という講題のもと次のように話された。

「私の心によって物事の見え方が変わる。私の見方によって地獄も極楽もある。どんな場所にも住むことができるのだと

蓮光寺に於いて、池田真師(愛西市・萬瑞寺)が講師にお迎えし、夏期真宗講座が開催された。

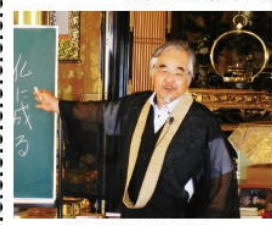
池田師は「仏さまから元気をいただく」という講題のもと次のように話された。

「私の心によって物事の見え方が変わる。私の見方によって地獄も極楽もある。どんな場所にも住むことができるのだと

お念仏申す人に出あう

藤場俊基師の講話

第13組
夏期真宗講座



熱く語る藤場師

連日の猛暑と各地のゲリラ豪雨が続く。去る7月25・26日の両日、第13組夏期真宗講座が開催され、講師には昨年引き続き金沢教区常講寺住職・藤場俊基師をお迎えした。

師は、お預りするお寺の子ども会の活動を通して学び、感じられたことに加え、師の問題意識とお聖教に学ぶ活力源である「なぜ、南無阿彌陀仏なのか」ということを中心にお話をされた。その中で「仏さまを介して友だちになる。友だちと

いっても仲良くすることでいい。そこには敬意を払いはない。大切にすれば成り立つ。また、お寺へお参りすれば、お念仏申す人(我が善き親友)がいらっしゃる」とのお言葉が印象に残った。

人間関係は条件によって好き嫌いがあるが、仏さまの眼を通して皆友だちであり、その関係は無限である。だから、感情的で利害に振り回される私たちは繰り返して教える学ばねばならぬのではないか。

二日目の聖教学習会では、七高僧の文言を引用されるなどしてお話をいただき、学びを深めた。

日々妥協することなくお聖教と向き合っておられることを感じさせる師の熱い語り口に、両日も暑さを忘れて真剣に聴聞する参加者一同の姿が印象的な法座であった。

第14組
夏期真宗講座

真宗と現代葬儀の諸問題

蒲池勢至師の講話

第14組の夏期真宗講座は、7月11・12日の両日、天神町の應春寺にて開催された。

近年、14組では葬儀に関する学習や取組みを行っており、講師には、真宗民俗史が専門の同朋大学特任教授・蒲池勢至師をお招きし、二日間に亘り、これまでの研究成果を聴講した。

初日の任職寺族研修では、真宗の葬儀の回復を課題として「真宗と現代葬儀の諸問題」について、スクリーンを使いながら講義をされた。この数十年前でも目まぐるしく変化してきた葬儀が、どのように変化してきたのか、また一つひとつの儀礼が持つ本来の意義など、師が収集した資料や直接接点を通じて写真やスライドを交え、丁寧に解説された。

初日の夜は、組内壮年門徒を対象に「老・病・介護、そして死」と題した講演が行われ、介護の問題を抱えながら



儀礼について語る

生活している門徒の感話と蒲池師ご自身が奥様への介護の経験を踏まえ、そのことをどのように頂いていったかを、お話された。

二日目は、組門徒会員が真宗門徒としての儀礼を学ぶことを目的に「真宗門徒の生活と現代」報恩講・墓の事例を通して「と題した講義を聴いた。

蒲池師の長年に亘る実地聞き取り調査による充実した資料は、生活に即した信仰の形を再発見させられるものであり、両日も充実感のある講座であった。

if イズモ葬祭

家族葬から供養のことまで

イズモホール西尾

0563-56-1011

イズモホール西尾

検索

〒445-0063 西尾市今川町落20

石碑・神仏前・石製品加工販売・石垣工事

心をこめた石づくりの店

有限会社 中村石材店

代表取締役 中村栄児

【西尾店】 愛知県西尾市下町御城下34番地2
〒455-0891 TEL(0563)54-3754

【工場】 愛知県西尾市田貫深田
〒444-0302 TEL(0563)59-3222
FAX(0563)59-0702

広告募集

〒444-0427

愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14

Tel・FAX (0563)72-2308

akabane_betuin@katch.ne.jp

まいろまい! 報恩講

報恩講ってなに?
率直に尋ねられることがあります。
おおまかに表現するの
であれば「親類縁者の法
事」というのが一番簡単
な表現だと思います。
昔は盆と正月とお祭
り、報恩講とお葬式、法
事をご馳走を頂ける素
敵な行事だったのです。
時代が変わり、日々の
生活が豊かになり、物が
溢れて、ご馳走という存
在や楽しむ行事は消え
て行きまして。
同時にご馳走様の言葉
や互助も消えて行きつ
つ準備は大変ですが、お

互い様で楽しい時間を過
すことが報恩講だった
のだと思います。
もしかして、生活の昔
労を少しでも癒す時間
だったのかも知れません。
今の時代、物は豊かだ
す。人は豊かになった分
お互い様が消え、お金で
事を通済せぬようになり
孤独で寂しい存在になっ
てきました。
報恩講とは、真宗の教
えを通して、人間らしい
古き良き時代と、便利で
夢を通えた現代社会を見
つめ直し、あらためて人
間らしく堂々と生きて行
くとはどういう事か、確
かめさせていたたく場な
のだと思います。



親子で川遊び

「おてら」を身近に感じて欲
し、この行事を通じて
も楽しんでほしいです。
参加者は総勢89名で、「赤沢
自然休養村(長野県上松町)
」で行ってまいりました。
もちろん、ただ山で遊ぶだ
けではなく、この行事を通
じて「おてら」を身近に感
じて欲しいです。
参加者は総勢89名で、「赤沢
自然休養村(長野県上松町)
」で行ってまいりました。
もちろん、ただ山で遊ぶだ
けではなく、この行事を通
じて「おてら」を身近に感
じて欲しいです。

親子で自然に触れよう 少年少女のつどい

第8組

7月31日、恒例の「少年少女
のつどい」を開催しました。
「少年少女のつどい」とい
うのは、8組の夏の行事で「自
然に触れよう、おともだちを
つくるよ、夏休みの親子・仲
間の思い出をつくるよ」とい
う御門徒の家庭を中心と呼
びかけているものです。
参加者は総勢89名で、「赤沢
自然休養村(長野県上松町)
」で行ってまいりました。
もちろん、ただ山で遊ぶだ
けではなく、この行事を通
じて「おてら」を身近に感
じて欲しいです。

お盆の集い 流しそうめん大会

第9組 祐正寺



本年8月13日に、第9
組・祐正寺の境内で、祐
正寺青年部主催「お盆の
集い・流しそうめん」
が行われました。
本行事は、お盆で人が
集まった際に、教化で
縁づくりを目的として、
門徒さんや、そのお子さ
ん・お孫さん達に楽しん
でもらえる事をしたいと
いう住職の提案をきっかけ
に、賛同した30代から
40代の方々が青年部を結
成し、昨年、初めて開催
され、今年で2回目の開
催となりました。
当日は、夕方4時より
室内でお経があり、参

赤羽別院報恩講に お参りください

10月14日(土)
初速夜 午後1時30分
法話 等周寺 天野美津子師
10月15日(日)
日中 午前10時
速夜 午後1時
法話 明水寺 鈴木 聡師
10月16日(月)
結願厳朝 午前10時
法話 安専寺 安藤 智彦師
結願日 午後1時
法話 正願寺 三保谷順師
15日・16日は
お斎(肉食)の用意があります。
16日法要後に
僧侶漫才「コンビえしんりょう」
のお笑いライブが開催されます。
お話しあわせのうえ
どなたでもお参り下さい。

赤羽別院にて 合同清掃奉仕のご案内

10月9日(月)
午前7時~9時
赤羽プロック世話会
教化センタースタッフ
報恩講をお迎えするにあ
たって「赤羽別院の清掃奉
仕を行い、みんなとお話し
して報恩講をお勧めしたい」と
いうご門徒さんのお言葉
をきっかけとしてこの清掃
奉仕が始まりました。
教化センタースタッフと
プロック世話会の交流を
深め、報恩講をお勧めした
いと幸いです。
是非、ご参加下さい。
※赤羽別院には十分な清掃
道具がありませんので、清
掃道具(軍手・竹箒・鎌・
ぞうきん等)をご持参くだ
さるようお願いいたします。

赤羽御坊蓮見俳句会 受賞句

門徒会長賞
試みに 押す蓮寺の ポンプ井戸 斎藤佳織
輪巻賞
咲くを持つ 蓮の蕾に 風やさし 信川芳枝
教化センター主幹賞
よく挽く 蓮田に掛かる 渡り板 古賀敦子
佳作
両の手に 包まれるやう 蓮の花 杉浦みはる
咲き初めし 蓮田の水に 動くもの 三浦眞樹
蓮を見に 行く約束の 空晴るる 名倉美枝子
秋迎偶び 白蓮に問ふ 仏道 石川鴻英
田を渡る 風に素直な 紅蓮 矢浦みち子
蓮の露 風来て空を 転がせり 井上洋子
お知らせ
定例の第15回御坊俳壇・川柳の締切は
11月5日(土)です。奮って応募下さい

情報募集

赤羽御坊新聞は、各組
より選出されたスタッフ
により制作されています。
紙面は赤羽別院崇敬区
内の仏事・行事の報告や、
お知らせの記事が主となっ
ていますが、スタッフの
みで崇敬区内の全行事の
把握することは困難であ
り、情報の収集に苦慮し
ているのであります。
「こんな行事を開催して
いるので取材に来てほし
い」「毎年ひらいている法
座の案内を新聞に掲載し
てほしい」等、情報を別
添までお寄せください。
※連絡先は1頁に記載

第10回子ども絵画展



受賞された子どもさんたち

絵を通じて、子ども達にお
寺を身近に感じてもらいた
い、本年度第10回目となる子
ども絵画展が開催されまし
た。
関係者で慎重に審査をした
結果、次の皆さんの作品がそ
れぞれ金賞及び銀賞に選ば
れました。
優秀作品はお御堂内に掲示
され、受賞者は赤羽別院に招き
一人ひとりに記念品を添えて
表彰されました。

金賞受賞者

- 一年 齋藤 柚希さん
- 二年 細井 力翔さん
- 三年 久米 仔々奈さん
- 四年 齋藤 千晃さん
- 五年 木口 綾乃さん
- 六年 清水 彩華さん

銀賞受賞者

- 一年 三矢 沙和さん
- 二年 牧野 結愛さん
- 三年 蓮田 来美さん
- 四年 該当なし
- 五年 堀内 菜々さん
- 六年 該当なし

お寺の掲示板

念仏というの
心を仏様の世界と
「なぐさ」
坂東性地
第十四組 安専寺

**赤羽地域教化センター
設立十周年記念誌
協賛御懇志**

第十三組 長壽寺様
貴重なご懇志を
ありがとうございました。

編集室

門徒離れたという言葉がチリチリしている。それはお寺側からの目線だと思ふ。お参りに人が来なくなっている、法事が少なくなり呼ばれなくなっている、法事、現状、僧侶のやる事が見えなくなっている、僧侶のたれと思ふ。また、僧侶やお寺の存在する意味も時代に吞まれて見えなくなっていると思ふ。

こういう時は基本に帰るのが一番ではないか。では、どうするのが基本なのか。蓮如上人の言葉に習い、寄りあい融合するのとはどうだろうか。そして、意見を申し合ふ。顔を合わせて膝を合せて、存在を肌で感じあう。ついでに遊んでも良いと思ふ。有難い事に赤羽地域には教化センターという場がある。

集うという事は、かなりの努力が必要である。もう一度、集める事・集まる事の大変さから、基本的な部分を学び直すのも良いのでは。昔はどれだけ忙しかつてもお寺に人が集まったが、何故これだけ便利にも関わらず人が集まらないのか。人が来なくなった理由は山ほど有ると思ふが、理由が山ほど有るとい事は、それだけ見直すチャンスが山ほど有るとい事も有る。地道にピラを敷く僧侶がいる。それを、見下すのか見習うかは自由だが、ただ見下す時点でそのお寺には人は寄らないのではないか。